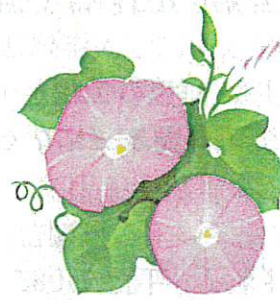


ぬくもり通信（たすけあいぐるーぷぬくもり）

令和5年 7月



042 (477) 9891

たすけあいぐるーぷぬくもり総会

理事長 細貝 泉

6月26日（月）中央地区センターに於いて令和5年度第22回の総会を開催しました。職員の32名が出席し、令和4年度の状況報告と今年度の方針等についての話し合いが行われました。

ぬくもりの今年度の事業目標は①連絡を密にして、より良い介護を目指し地域社会に貢献する。②職員とその家族の生活の向上に寄与します。③資格取得を応援し、資質向上を応援します。④地域住民との交流を深めます。⑤福利厚生等を充実させ、職員の働きやすい環境整備に努めます。



またヒヤリハットの発表が担当者から説明がありましたが、あってはいけないことですが、ヘルパーの訪問失念もありました。やはり連絡はくどい位に密にする必要があります。また、入室時に救急搬送の対応が必要な案件も報告され、総会終了後に緊急時の対応について研修を行いました。現在利用者情報の整備が一応完了し、各利用者の実施記録帳の表紙の裏面に貼付し、緊急時に対応できるよう体制を整えているところであります。

団塊の世代が75歳に達する2024年にはヘルパーが約30万人不足すると言われております。職員の確保が急務となっております。また職員の待遇改善も取り組んでいく必要があります。社会の要請に応える体制を構築しなければいけないと考えます。

まだまだ、改善すべき点が多い当事業ですが、何卒応援していただければ、幸甚の極みであります。

イベント 「みんなで歌おう あの名曲を！」 開催

来る10月7日（土）14:00～生涯学習センターにおいて、市民を対象に「みんなで歌おう」を企画します。（日程は変更の可能性あります）

懐かし唄の数々であります。「幸せなら手を鳴らそう」「いつでも夢を」「高原列車」等などであります。

ぜひ皆様のご参加もお願いしたいと考えます。



6人に一人が認知症 費用は年間350万円

政府が2020時点で推計した数字によると認知症の人は602万人であり、高齢者の実に約6人に1人が認知症であると考えられます。

更に、団塊の世代が全員75歳になる2025年には高齢者の約5人に1人にあたる約675万人が認知症になると見込まれます。



また費用面を見ると、在宅で家族が介護した場合、1週間あたり16.6時間、さらに介護従事者の賃金にあてはめて、1年間にかかる金額は6兆7718億円、医療費1兆734億円、公的介護サービス費用4兆7832億円、合計12兆6283億円となり、認知症の人1人あたりで、年間約350万円かかる計算となります。

専門家によりますと、このような計算はあまり集計されてこなかったが、家族介護を金額に換算した「隠れたコスト」は非常に大きな額になると指摘しております。

ところで、政府が19年に「認知症施策推進大綱」で発症を1年遅らせるため、「共生」とともに進行を緩やかにするというかたちでの「予防」を前面に打ち出しました。しかし、確実に有効な「予防法」は研究段階であり、病状自体を改善する薬はまだありません。

こうした状況下で、国の制度として「介護休業」（対象家族1人あたり3回まで通算93日休業可能）や「介護休暇」（対象家族1人で年5日まで）などの制度があります。

しかし実際には介護離職防止策として周知が進んでいないのが実情と言われております。専門家は研修等を通じて社員一人一人が理解できるよう重ねて知らせることが重要と指摘しております。

介護保険2割負担の対象拡大へ

介護保険制度の負担増に向けた議論の結論が今年末までに出す方針のようです。人手不足で介護職員の処遇改善が急務となるなか、少子化対策のための財源確保も求められ難しい判断が迫られようとしております。

負担増で焦点になるのは①利用料を2割負担する利用者の拡大 ②65歳以上の高所得者の保険料の引き上げです。特に2割負担対象の拡大について、厚生省では現在の「被保険者の年収上位約20%」までを「30%」までに広げる試案を提示しております。この為、現在の2割負担対象は現在「単身では年金収入などが年280万以上」とされておりますが、「220万円以上」を対象となりそうです。また、②の保険料ですが、高所得者の負担率を上げることを検討します。具体的には収入に応じて9段階ある標準モデルの中で、合計所得が320万円以上の区分（被保険者の7.1%、255万人）を細分化して引き上げる予定です。

人材確保には処遇改善が求められますが、介護従業者の平均給与は31万（賞与を含む）です。全産業平均の36万円との差は大きいです。介護報酬を増額するには利用者負担や保険料の引き上げといった財源確保が避られない状況です。